



オタリーの聖マリア教会（聖堂参事会管理の教会）の御案内

日本からいらした皆様、この歴史的で美しい教会へようこそ！！
この教会は700年もの間、敬虔な信者たちによって崇められてきました。歴史的で美しく興味深い多くの面を持ちながらも、現在でも活気のある大きな礼拝が執り行なわれていることでは群を抜いていると言えるでしょう。どなたでも私達の礼拝に参加していただいても構いません。時間については南ポーチの掲示板を御覧下さい。

<歴史的背景>

現存する大建築はエクセターの司教（1312～1369）ジョン・ド・グラディソンの業績に拠るところが多岐にわたります。彼は1342年エクセターのカテドラルの方針に添って、聖堂参事会系の教会として、小さな町の割には大きな規模の、この教会を建てました。北の回廊（ドーセット）は1520年頃に付け加えられたものです。それ以降、修道院のような周辺の建物が失われていったにも拘らず、付け加えられたものはありません。1545年ヘンリー八世の法令によって聖職者学校が解散させられ、建物と財宝は王の弁務官に引き渡されました。同じ年に専売特許証によって、オタリーの聖マリア教会の相続財産に管理する4人の理事を任命し、彼らにこの教会を永続的に維持管理することを委ねました。7年後に8人の補助の理事が付け加えられました。今でも、理事と補助理事は、教区の教会評議員達と協力して定められた義務を果たしています。

<主な見所>

- 祭壇に至る身廊と、内陣（聖歌隊の席）、アーチ型天井の彩られた豪華な様式の骨組み、祭壇の一番上まで延びている浮き彫りの装飾と覆いに注目してください。
- 美しい彫刻で飾られたアーチを持つオットー伯とレディ・グラディソンの記念碑。
- 回廊の祭壇の上、窓の上部の中央部分にあるグラディソン司教の浮き彫り
- 南翼にある天文時計は、多分14世紀のものでしょう。
- 南翼のモザイクタイルは、初代コールリッジ男爵の指図で、ウィリアム・バターフィールドによって作られたものです。
- 祭壇の壁はグラディソンのオリジナルの壁を推測によって再現したものです。
- 内陣の丸天井の華麗な骨組みと、彩り。高い祭壇と西側の上の浮き彫り。
- 内陣と回廊を経て西側の突き当たりに至る眺め。
- 高い祭壇に面した本来の聖堂参事会員の特等席。今では特別の祭典のときなどに、教会理事と補助理事の席として使われています。
- レディチャペル、祭壇の仕切りの後ろに聖ステファン、聖ローレンスの両チャペルと

共に在ります。レディチャペルで見るとべきものは、

- ・ピアーストーン（オタリーの南東の海岸に面した町ピアースで採れる石材）の彫刻のある廊下
 - ・参事会員のためのミザリーコード（畳み込み椅子の支え）付聖職者席。
 - ・中世の鷲型聖書台。
 - ・司教とその妹ソルズベリー伯爵婦人の頭の梁受けと、聖域の上の屋根の浮き彫り。
- 北（ドーセット）回廊は扇上に広がり下がっている彫りものが見事です。そして
- ・1632年に亡くなった昔の理事ジョン・ヨークの等身大の像。
 - ・チューダー朝時代のベンチエンド。
 - ・西側の十二使徒の窓。
- 北西のコーナーの展示ケースとその他の展示物。
- ウィリアム・バターフィールドによる大理石の正面。
- 南のポーチの西の壁にあるトーマス・アクス（この教会に多大の援助をした人物）の遺言は今でも有効に働いています。

もしこれ以上にお知りになりたい事や、ご不明な点がありましたら、係の者にお尋ねになるか、入っていらしたドアの近くで売っているガイドブックをお求め下さい。

<立ち去られる前に>

あなたのこのご訪問が楽しく、あなたの経験をみのり豊かにするものであったことを祈っております。

ここを離れる前に、今あなたと経験を分かちあっている幾世代もの人々について想を至らしてください。しかし未来はどうでしょう？ 私達の子供、孫、そしてその後続く世代はこの特権を共有することができるのでしょうか？

教会を維持管理することはとても費用が掛かります。そして年々費用がかさんでいきます。英国の文化遺産回復の為の特定の、政府財源以外の寄付は受け取っていますが、多くの資金を訪問者の善意に頼っております。幾らかでもあなたのお志を頂ければ幸いです。